

海外インターンシップ報告書

氏名	弓場紀明
所属	鹿児島国際大学 経済学部 経営学科 4年
渡航先	シンガポール、マレーシア

1. 参加目的

国際感覚を養い、多民族国家であるシンガポールの経済発展をこの目で見たかったため。鹿児島を世界にPRするため。

2. 大変だったこと・つらかったこと

商材がお酒だったため、PRすることがなかなか大変だった。特にイスラム教やヒンドゥー教は、お酒を禁酒している場合が多かったため、その点が大変であった。また、シンガポールは、政府の力が強いので、表立った行動は、控えた。

3. 楽しかったこと

シンガポールならではの多民族国家をこの目で見ることは、いい経験だった。ゲストハウスでの出会いや現地の人々との出会いは、自分を成長することができた。シンガポールからクアラルンプールまでバックパックすることができたので、旅することの面白さも体感することができた。

4. 達成できたこと

自身は、中国に留学していたので、中国語を使ってお酒をPRすることができたのは、良い経験になった。陸路国境越えを初めてできたので感動した。

5. 渡航前と渡航後の自分自身の変化

初めての一人での海外だったので、渡航前は不安でいっぱいだった。今回は、自分自身に裁量権が大きかったので、自分で考える行動する力がついたと感じた。語学の面でも、その場しのぎの会話ぐらいしかできなかったので、もう少し、奥深くまで会話ができるようになるまで語学力を高めたいと感じた。旅をすることによって自分を見つめ直すいい機会になり、また出合いを大切にしていきたいと思った。

6. 現地での商品の反応

正直お酒を進めるのは、怖かった。お酒を飲みますと運転もできなくなるし、現地の人からしたら、海外のものを無理やり飲め！とゆう感じなので、なるべく親日寄りの方に商品を進めることにした。

7. 商品が現地で広まるためには、どうする必要があると思いますか。

シンガポールでは、日本という国の知名度は抜群にあることは、わかった。

また、シンガポール人も日本に来たことがあるという方が多かったので、東京、大阪の次の場所を探している感じがした。また、日本料理店が多いので、そのような店でまずは、焼酎を卸して、日本を好きな人からマーケットを増やしていく方がいいかなと思った。また、焼酎ならではの、水やお湯で割る文化がないのでそのあたりも広めて行かなければならないと思う。またビールより焼酎の方が健康的なのでその辺も強みだと思う。

8. 海外インターンシップを通して、あなたにとって「働くとは？」何ですか。

働くとは、自分が生き生きしていくことだと思います。世の中には、様々な業種の仕事があります。いかに自分の適正にあった仕事を見つけて、ストレスをあまり感じることなく、相手にも自分にとっても良い行いをする中で、自分の必要性を感じられる行為だと思う。

9. 現地での活動を振り返って、感じたこと

日本国外ということもあって毎日が新鮮でとても充実した日々を過ごすことができた。シンガポールは、日本の先を行っていると思う点もいくつかあった。その一つが、多様性である。シンガポールは、多民族国家なので、それぞれの人種が尊重して、暮らしている風景を見て驚いた。

もう一つは、国際性である。シンガポールは立地的にも優れていますし、外国人を受け入れる体制が整っているように感じた。あとやはり英語が公用語という点も国際化を加速させた要因かもしれない。最後に自立性。シンガポールの街を歩くと、日本人よりも物怖じしない感じがした。特にインド人。また、子供、老人が英語を普通に話し、また母国語も話している姿は、驚きでした。

